

序 文

第4回日本Neurogastroenterology(神経消化器病)学会は2005年11月26日に佐賀で開催された。第3回より消化器関連学会週間とは会期を別に開催しており、今回は14題の一般演題が寄せられた。演題数は多くはなかったが、それぞれの演題が優れた内容であり、発表や議論に時間をゆっくりとすることができ充実した内容となった。従来は関東や関西の大都市で開催されてきた本学会を佐賀という地方都市で開催する新しい試みであったが、佐賀県医師会や佐賀大学改革推進経費研究プロジェクト：医食同源の科学的解明と共催であったこともあり、203名が出席し活発な議論が交わされた。特別講演は九州大学遺伝子細胞療法部教授の赤司浩一先生に“幹細胞システムの分化制御機構”の演題で、消化管の幹細胞から全身の幹細胞にいたるまでの内容の講演をお願いした。もう一題の特別講演は九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻高次脳機能講座教授の栗生修司先生に“食欲と種の存続”の演題で消化管を中心に人間や猿の本能についての講演をお願いした。

本学会では今回より佐藤信紘理事長の発案で学会賞を設定することとなった。選出方法は投票による互選方式で行った。第4回学会最優秀演題賞

には東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学教室教授の尾崎博先生“炎症性サイトカインによるCPI-17発現抑制を介した消化管平滑筋運動機能障害：TNF- α の役割”が選出された。さらに奨励賞には、愛知医科大学看護学部病態治療学教授の金子宏先生“ラット胃内バルーン拡張刺激による内臓痛行動および腹筋収縮へのモサプリドの抑制効果”，獨協医科大学消化器内科助教授の米田政志先生“中枢性ニコチンによる肝循環制御”，山口大学農学部獣医学科家畜薬理学教室助教授の佐藤晃一先生“腸炎発症に伴うプロテアーゼ受容体の機能変化に関する研究”の3演題が選ばれた。

特別講演の演題や学会賞の演題の内容は、本学会が多方面の研究者から構成されているという特徴を示している。本学会は日本ではまだまだ駆け出したばかりであるが、神経系と消化管との関連は今後注目されていく分野であり、ますます発展していく可能性を有している。学会のホームページ(<http://neuro-g.umin.jp/>)も開設されており、より多くの研究者の参加を期待したい。

佐賀大学医学部内科学教授 藤本 一眞